



確かな学力の向上をめざして【12月】

■幼児期の教育との円滑な接続に向けて

8月の幼保小連携推進研修会（第3回幼保合同研）では、スタートカリキュラム等を持ち寄って研修をしました。しかしながら、スタートカリキュラムを初めて見たという園の先生方の声も聞かれました。幼保小連携は進んできていますが、更に教育課程のつながりを意識し、連携の質を高めていく必要があります。

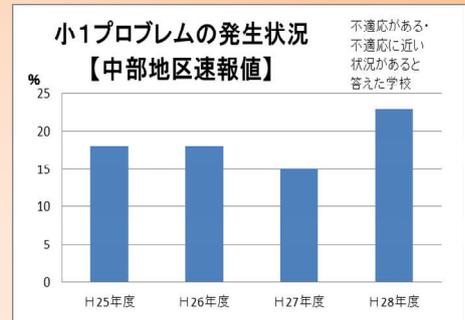
平成28年度 幼児教育調査（中部地区 速報値）より

今年度、県内全小学校・保育所（園）・こども園・幼稚園に御協力いただき、4年ぶりに「鳥取県幼児教育調査」を行いました。

1 小1プロブレムの発生状況

過去4年間の小1プロブレム発生の有無の調査では、「不適応がある・不適応に近い状況がある」との回答が、継続して2割程度あります。

各学校で、幼・保・小の連携に向けた取組をいただいているところですが、小1プロブレムの解消に向けて課題を把握し、円滑な接続ができるように、効果的な対策を取っていく必要があります。



2 不適応発生の予防に向けて

不適応の発生予防に効果的だと思われる対応策として、次の2点が挙げられています。

- 「スタートカリキュラムの作成と活用」
- 「幼・保・小連携による教職員の合同研修や情報交換」

各学校でも、スタートカリキュラム作成は重要だと感じておられることがうかがえます。

スタートカリキュラムの見直しを～4月からの活用に向けて～

スタートカリキュラム編成の留意点

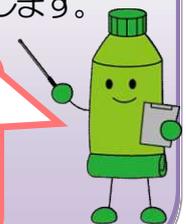
- ①幼・保・こども園等と連携・協力すること
- ②個々の児童に対応した取組であること
- ③学校全体での取組とすること
- ④保護者への適切な説明を行うこと
- ⑤授業時間や学習空間などの環境構成、人間関係づくりなどについて工夫すること

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」P.19～P.21

中部地区の小学校のうち、約8割はスタートカリキュラムを作成済みです。各校の実態に合わせて、スタートカリキュラムの作成や、より良いものとするための見直し・検討をお願いします。

チェックしてみましょう

- 園と連携・協力して作成していますか
- 全職員が内容について、知っていますか



*「スタートカリキュラムスタートセット」（平成27年1月配布）、「鳥取県幼保小連携カリキュラム」（平成26年3月配布）、「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集」（平成28年3月配布）にも幼保小連携の事例等が掲載されていますので、御活用ください。